

---

# 早期臨床実習を終えて

---

## 早期臨床実習を終えて

歯学科1年 相澤知里



1年次のカリキュラムの中に「早期臨床実習」という言葉を初めて見つけたときの緊張感は今でも忘れられません。実際に早期臨床実習が始まってからも、新しい環境で積極的に物事を吸収しようという前向きな気持ちがある一方で、白衣を着ているにもかかわらず専門知識をほとんど持たない私が医療現場に足を踏み入れるということに戸惑いを感じていました。しかし、実習を進めていく中でそのような戸惑いをも忘れてしまうくらい多くのことを学ぶことができました。振り返ってみると、それらの中には専門知識よりもはるかに大切なことが多くあったように思います。

「患者役実習」では、自らが患者となり6年生の先輩に診察をしていただきました。実習という形で患者役を体験することで、患者としての気持ちに注目しながら診察を受け、普段では気づくことのできなかつたさまざまなことを発見することができました。さらに、診察や治療の進め方、治療器具の使い方なども教わりました。治療器具には患者役実習を行ったユニットだけでも多くの種類がありました。それらを使いこなす姿に憧れを抱くとともに、歯科医師になるためには本当に多くのことを勉強しなければならないのだということを痛感しました。そして、これからの学習に対する決意を新たにすることができました。

「治療見学実習」では、主に4大診療科を見学させていただきました。歯学にもさまざまな専門分野があるということは知っていましたが、実際に治療の様子を見ると、使用する治療器具から治療の進め方に至るまでそれぞれの分野で大きな違いがあるということが改めて分かり驚きました。しかし一方で、共通して見られたこともありました。それは「歯科医師の患者さんとの密なコミュニケーション」です。患者さんに治療方針を説明する際に患者さんが確実に理解し同意しているかを確かめながら行う姿が、私の描く理想の歯科医師像に重なり強く印象に残りました。

「患者付き添い実習」では、来院された新患者さんを案内させていただきました。ご案内していく中で、大学病院の受付から会計に至るまでの連携のすばらしさを実感しました。また、そのような優れたシステムがありながらも患者さんを待合室まで迎えに来る担当医の姿に心が温かくなりました。最初は不安げな表情を浮かべていた患者さんが、別れる時には笑顔になり「ありがとう」と言ってくださいました。それが本当に嬉しくて今でも忘れることができません。この気持ちはいつまでも大切にしていきたいです。

今回の早期臨床実習は、学ぶべきことが凝縮された有意義なものであり私自身も積極的に取り組むことができました。しかしこれらは自分の努力だけで得たものではありません。先生方をはじめ6年生の先輩方、協力してくださった患者さんのご指導があってこそそのものだと感じています。感謝の気持ちと高い志を常に持ち続け、自分の思い描くあるべき歯科医師の姿に少しでも近づくことができるよう日々努力を重ねていきたいと思いません。

## 早期臨床実習を終えて

歯学科2年 相馬 歩

昨年度までザ・キャンパスライフを五十嵐にて楽しんでいたのが夢だったかのようで、私たち歯学科2年は今年度より旭町に生活の拠点を移し、主に基礎系学問を新たな環境に身を置いて学んでいます。日々学んでいくにつれて知的好奇心をくすぐるような発見が多く、とても充実しているのですが、ある時勉強で得た知識の臨床的意義を考えもしないどころか歯科医師になる自覚すら曖昧なままに私は勉学を進めてきたことに気がつきました。そんな時に早期臨床実習Ⅱがあり、ここでは私が早期臨床実習Ⅱで何を感じ、学んだかについて述べたいと思います。

この授業では新潟大学の臨床の現場を見学するのですが、1年の際にも早期臨床実習Ⅰというタイトルが似た講座がありました。早期臨床実習ⅠとⅡの大きく異なる点は見学内容がより専門的でレベル上がっているのはもちろんのこと、自分たちが得てきた知識量の差、そしてそれに伴って治療現場を見学する際の質が向上したことだと思えます。具体的には歯科材料学を学んでいたことでどのような治療を行っているのかを完全とまではいきませんが、名前は聞いたことある！という位まで理解できるようになり、基礎と臨床がリンクすることでより一層勉強の意欲を掻き立てる一因にもなりました。加えて先生方が私たちが理解できる範囲で説明をしてくださるため、未知なものばかりという昨年度とは全く異なる状況へと変化していました。治療現場の見学に加えて実技実習も数回あり、歯科に直結する実習が本格的に行われていない私にとっては病院見学と同様にとっても刺激的で、自分は将来歯科医師になるという自覚を改めて確認することができました。

最後に歯科医師である前に社会人として成長する必要があると気づかされる機会がありました。とある科の治療見学中に患者さんの血圧と酸素分圧を測らしていただけるチャンスが一度だけありました。突然のことだったのでどのように声をかけて、どのように患者さんに説明し、スムーズに計測できるかをよく把握していなかったためかなりグダグダになってしまいました。たった数分の出来事でしたが患者さんとの接触を経験することで現場での緊張感、歯科医師と患者さんとの距離感をより強く感じる事ができ、見学だけでは得ることができない貴重な体験をすることができました。そこから歯科医師の接遇にはコミュニケーション能力が重要になってくると私は感じました。現在私は居酒屋でバイトをしているのですが接客業としてはとても共通項は多く、特にお客様に心地よい思いを提供する部分は同じだと感じます。バイトで学んだお客様への気遣い、言葉遣いなどを歯科医師での仕事場で還元できるようバイトを励みながら、2年生で得た経験そして知識を基盤とし今後も歯科について意欲的に学んでいこう、そう思えたのはこの早期臨床実習Ⅱがあったからだと思いました。



筆者：左